

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより  
逢いてエ

# 雑報 綴文

いろんな差之があるから面白い  
いろんな人がいるから楽しい

No. 507

2019年1月 **夕刊**

編集・発行 鈴木厚正

〒266-0005 千葉県緑区菅田町2-21-357

T&F 043-291-2917

も・く・じ

- お便利から 2
- 新春のお便利から 7p.20
- 「住井すゑわたしの少年少女物語」他 12
- 山仕事(1/14, 大平・島田) 16
- " (1/19~19, 大平) 19
- " (12月, 大平・島田) 21
- 海が売られる 23
- 日韓関係は絶望的か 25
- 父ブッシュの中傷広告 26

( 掲示板は  
次号に )

## 「元号」は使いません。

雑報綴文は、第1号から今まで、寄稿文や引用文を除いて「元号」を使っていません。天皇個人の人柄は昔から時の権力は天皇を利用してきました。いままた「明治150年」など、戦前回帰のナショナリズムを煽る政権があります。

「真子さま」と「圭さん」など敬称に差をつけるのも気になります。だからぼくは「様」は宛名だけに、とお願ひしています。

鈴木厚正

▲ / 名

1月10日現在の  
会員数 250名

この見本誌をみて新たに

「読んでみようか」という方は、

2019年3月までの  $250 \times 200円 = 50000円$  円を  
郵便局で 00100-2-20630

「雑報友の会」

へ 申し込み下さい。

題 字 敬 佐村隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)

カ ッ ト : 泉ゆきをさん (にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

※ この号の切手は、

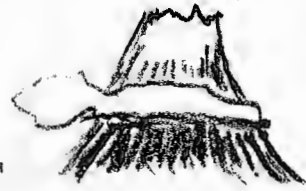
1

日本・スウェーデン外交関係樹立150周年  
The 150th anniversary of the establishment of diplomatic relations



## 山仕事 (11月、大平・島田)

11月11日(日)、うす晴れ。久しぶりに五人で富士山の中腹に雲がかかり、8合目付近から上が白い。



敷地駅で正士さんと久米さんに迎えられ、深澤明男・富士村さんの「豊田農園」へ。台風24号で「葉ずれ」のミカンを沢山いただく。いつもご馳走さまです。正士さんちに着くと、ゆづちゃんや玲ちゃんを連れて来ていた。元気そうだ。

夕暮れまでわずかな時間、家のそばの梅の斜面で草刈り。正士さんが数本植えたサクラの苗木は、カモシカに葉を喰われていじけている。

夕食のメニューは、マグロの刺し身(遠鉄ストア)、サバの味噌煮、ステーキセニョールのサラダ、原木生したりのステーキ(ほくが頼んで買ってもらったが、よかつた)、風呂ふき大根しょうが味噌添え、大根の皮のきんぴら、豆もやし(山ちゃん大好き)に、正士さんの手打ちそば。だしはかえしは久米さんだ。

尾上美智子さんから、久保田の大吟醸と千寿の三本セット、アサオカさんから発泡酒の差し入れ。ありがたくいただく。

11月12日(月)、明け方雨上がる。

この日は、財産区の草刈り。正士さんがメールで案内した磐田市の職員が見に来てくれるだろうか。

この日都合の悪い乗松さん(壮年の方)が、すでに一角を刈りつけていた。ほくらのほかにもう一人の乗松さん(24歳)が参加。正士さんの呼びかけに応じる地元の方は、西乗松さんだけだ。急斜面に刈払い機は危険なので、久米さんは鎌で



昼食は、中華丼。午後、佐藤さんは、前回整理した大量の倒木枝葉の焼却にまわる。

一日かかって、上部と北側の一部を残すだけになった。

しかし、市の職員は来なかった。正士さんは憤慨する。言葉を尽くして呼びかけているのだから、無理はない。だが、木っ葉役人のはくれのほくは、こう考える。市町村の職員



は、相当分野が広い。小さな村では、一係がふたつの省庁に対応することもある。相当する仕事も二、三年でかわることが多い。旧敷地村の職員がよくわかっている「財産区」という存在も、合併して豊岡村となり、さらに合併して磐田市となると、疎遠となる。もともと森林域の無い磐田市の職員は、財産区(旧村住民の共有財産)という概念とは無縁のはず。正士さんが口を酸っぱくして説明しても、よくわからない職員が財産区の古株に物言うことは難いだろう。そうすると、古株の人たちのいう方に耳を傾けがちになっても無理はない。その古株の人たちも、正士さんのいうことは正論だから、まともに反論できず感情的な言い方になるのだろう。

このような状況が続けても、発展はなさそうだ。そこで正士さんは「大平地区の財産区」に限定せず、環境や過疎地域、人口減少など広い見地から対策を市に求めてはどうだろうか。さもないと正士さんが疲れはばかりだ。

財産区はひとまず置き、夕暮れ近く、アサオカさんの元田んぼの草刈りにかかる。なにせ、昨夜、もらった発泡酒をのんびやっているのだから。

康江さんと又米さんが調べてくれた夕飯は、風呂ふき大根、牛肉のレコン巻き、レコン入り肉団子、カブの酢のもの、茹でた葉大根とシラス、レコンとアボカドのサラダ、佐藤さんが焚火で焼いた焼芋、そして正士さんのそば。

11月13日(火)、くも。

若林さんからきいていた、島田市の小澤幸枝(スズエ)さん方へ。缶ビール持参の伊藤忠一郎さんも加り、9名。

一時間余りかけて着いたのは、背後に3haほどの森を持つ大きな家。この日は家のすぐ裏手、崖上に生えている笹やぶとその周囲の樹木の整理。笹の面積は狭いが笹の密度が濃い。

りのご勘定で2,159本とみた。正士さんは崖上から、ぼくは崖下から刈り払い機でとりのかる。崖下に落とした笹を、佐藤さん伊藤さんが軽トラックに積みこみ、市の処理場へ搬出する。それを4~5回くり返したろうか。

途中、昼食をいただく。小澤さんとその



友人長谷川さんに、康江さん久米さんがおわり用意されたのは、タケノコとこんにゃくなどの煮物、栲工ビの煮浸し、青菜と豆腐の煮物、サウのフライとサツマイモの素揚げ、豚汁になにぎり三種(梅、菜、若芽とジャコ)。たふふたふた。

午後も続行。どうやら片付いたところで、道路からの入口に生えた大きなシロ?の伐採(下の写真左側)。(写真右は、笹を刈った後)



作業を終え、近くの「伊太和里の湯」で入浴。上流の川根温泉からの引湯だそうだ。清酒「鬼ごころ」とワインを頂く。

正士さんちに帰っての夕食は、イカのすり身フライ、白菜と赤カブの漬物。そばの代わりに、久米さんが握ってくれたなにぎり。

11月14日(水)くもり。主力がソバの脱穀にかかる間、一人が浅岡さんの田んぼ跡の刈り残しを刈る。それを見て、近くの西田さんが柿をくれた。続けて丑さんち裏の草刈り。これはとても終らない。

昼食は、カレーと大根と人参のなます、里芋のしょうが味噌(ばくの里芋は大不作のため、久米さんの畑から)、子メロンの炒めと漬物に、佐藤さんの焼芋を頂き、帰宅。



# 山仕事(11/17~19, 大平)

11月11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19 と連続し、勝が英信寺となった。

山仕事 テニス<sup>と</sup>山仕事

上記のように、山仕事の間の二日間は家に居て、テニスと浮世絵美術館の草刈り、その間をぬって雑報の原稿つくりと、炊事に洗濯。

どうにかやり終えて、17日(土)、いつもより一時間早く静岡へ。今回、ACAP環境グループからの話が急だったため常連の都合がつかず、横浜から伊藤光男(サカタのタネ)が合流。介護が終り、これからは期待できそう。富士山がきれい。

掛川で天浜線にのり替えると、三宅伊都子さん(ACAP:消費者関連専門家会議事務局)と、高木さん(ニトリ)がすでにのっていた。敷地駅に着くと、落合(バスター)、樽谷(ホッカ・サッポロコーポレーション)などに、鈴木正士、久米さんが待っていた。

久米さんと三宅さんが買物組にまわり、残る男性は厩産区の草刈りに。先日と同様、84歳の乗松さんが加わってくれた。

夕方近く、磐田市の職員(女性)が見に来てくれた。再三にわたる正士さんの要請に応じ、ミカン持参で休日をして来てくれたのだ。

従来、ACAPグループの山仕事の時は、となり町の尾張屋に泊まり、夜は正士さんや深澤さんと共に懇親会に参加するのが常だった。今回人数が少ないこともあって、正士さんちで一緒に泊まることにしたのだ。グループもOBがいえずACAPとしての行動は今回が最後となるようだ。

夕食は久米さんと三宅さんで、寄せ鍋、焼鳥、しゃも焼、ホウレンソウと春菊と竹輪(ちろん紀文の)のゴマ和之、ナスの煮浸し、囲炉裏の炭火で焼き野菜(ツマイモ、カボチャ、原木シタケ)、久米さんが育てた里芋と鶏肉煮、これも久米さん手製のコンニャクの刺し身に正士さんの手打ちソバ。今秋、正士さんのソバは大作で、種子ほどしかとれなかった。ぼくの里芋と同じだ。これは、アバシと無関係。

日付けが変わる頃、三宅さんは久米さん宅へ。

18日(日)、晴。今回はいつものシエラがない。朝食の用意は正士さんとはくでやるしかないと感じた。ところが、久米さんが前夜のうちに焼き魚など支度しておいてくれ、康江さん提供の納豆をかきまわすくらい。助かります。

厩産区で短時間草刈りの後、東小学校(廃校)の奥にボランティアが開設した里山公園を見に行く。正士さんの同級生だった寺田さんが案内してくる。思ったよりも広く、さまざまな花や木が植えられ、カフェまで設けてあった。

最高地点に立つと、三基の発電用風車のあるロックフィールドのサラダ工場などが見渡せる。一部柿園も残り、皮をむいて干し柿作りをする人も居た。



そのあと、獅子鼻公園下の石仏をテラ、とみて戻り、カレーの昼食。

深澤さんのミカン園に向かうACAPグループと別れ、丑さんちの裏と財産区  
の残りの草刈り。

夜は、里山公園を案内してくれた舟田さんとも和わり、懇談。伊藤(光)さんも  
メニューは、豚肉のすき煮、小松菜と迄揚げの煮浸し、レンコンと大根のきんぴら、  
セロリとブロッコリーのサラダ、おろし長芋のステーキ、ナメコと竹輪とオクラのおろし  
和えにおそば。勿論、夕米さんのだしとおそば。

19日(月)、小雨は明け方にやみ、曇りに。数日前の子報では17日と19日に  
マークがあったが、両日とも日中は問題なし。今年の山仕事はついていた。

正士、光男さんと三人、インスタントみそ汁と残り物で朝食。腰が不安だ。  
無理もない。11日から19日までの9日間で、7日は正士さんちで草刈り。残る二日  
も、午前・午後テニス(15日)と季世絵美術館の草刈り(16日)。爆発するよう気を  
つけながら、梅の斜面の草刈り終える。

夕米さんが来て作ってくれた卵炒飯をたべ、お二人に見送られ帰途につく。

## < お便りから > 追記

前ページ「光男さん」が  
ぬけて、ごめん。

◇ 編文506号ありがとうございました。『おかり火』184号がほぼ同時期に  
届きました。鈴木厚正さんの記事を読みました。菅原さんから予告のよう  
な言葉をいただいていたので、期待して待っていたのです。私たちが思い描い  
ている鈴木さんがまさしくそのまま紹介されていました。誇張する必要がない  
のです。ありのままの厚正さんへの信頼にあふれていました。

横須賀和江さん (先恥ずかしくて、子どもにも見せられません。)  
(仙台市) (これは、悪いことができなくなりそうです。)

◆ 「一陽来復」は、二十四節季の一つで、冬至を意味するだけでなく、この言葉には  
「陰が極まって再び陽が生ずる」ことを意味しています。太陽の力が再び戻っ  
てくることを表している言葉です。冬のきびしい寒さに耐え、新しい春を迎えることで、  
人生が一度リセットされて喜ばしいことが訪れる。そのような想いを、いたしへの人は  
「一陽来復」に込めてきます。お正月は、「一陽来復」という言葉を通して、  
人生の再生を迎える節目の日。一年の始まりを祝うことはもちろんのこと、これから  
始まる一日一日を清新な心で生きることと誓う、そのような機会にしたいものです。  
今年一年、よろしくお願ひ致します。皆様方のご多幸をお祈り申します。

米村孝月さん(いけはな研究家、熊本市)

# 山仕事(12月、大平、島田)

12月13日(木)、曇り、夕方晴れ。久しぶりに、伊藤(康)、佐藤、原田、山崎さんと5人。敷地駅で正士、ス米さんに迎えられ、深澤さんの「豊田農園」でミカンを沢山いただき、「豊田とれたて元気村」と遠鉄ストアで食糧を買い、正士さんちへ。日没が一番早い時期とあって、薄暮となるまで田んぼであぜ草刈り。暖冬とはいえ、陽が落ちると風が冷たい。

深澤さんに声をかけたが多忙で来られず、ぼくたちだけで夕食。メニューは、牛肉とネギの炒めもの、人参炒め、ブロッコリーのサラダ、大根煮、エシャレット(ラッキョウの若者)、里芋(ス米さん?)のユズ味噌、キムチ、囲炉裏で焼いた原木シタケに正士さんの手打ちそば。だしめしはス米さんだ。

食後は、英ちゃんのケーナにのって「猫の手箱唱団」。22時過ぎ、双子座近くの流星群を見ようと外へ。だが、期待外れ。

14日(金)、快晴。ミニトマトを拵って、伊藤憲一郎さんが参加。桶ヶ沢とツツジ斜面の草刈り。

昼食は、焼き飯にブロッコリとトマトのサラダ、ス米さんの大根漬け。

夕方、松田敏幸さんがマグロのづけを拵って来る。今日は呑んでも伊藤(徳)さんがいるので、嬉しそうだ。

メニューは、酢豚、サワラのバタ焼き、ベーコンとカブの炒めもの、白菜のユズ和え、小松菜炒め、板尾揚げ(新島の厚揚げ)で納豆包み焼きとおそば。流星見えず。

(頂き物)  
 深澤さんから ミカン }  
 伊藤和代、千代の園2斤 }  
 丑さんご子息、獺祭1斤 }  
 正士さんのいとし 清酒 }  
 梅谷さんから エビスビール }

15日(土)、晴。竹中さんが加わり、全員で二度目の島田行き。この日は竹林の整理。午前中、果樹園におおいかぶさるような竹を、全部切る。(下の左)

昼食は座敷で。家主の小澤幸枝(スズエ)さんと友人の長谷川さんに、康江さん、



カメラ: 正士さん

久米さんが加わり調理してくれた食事は、筑前煮、厚揚げと竹の子と根菜の煮物、木菜と魚肉ソーセージの炒め煮、白菜漬け、高菜漬けに新米のじゆんと汁。

午後は、急斜面の竹林に折り重なった枯れ竹の整理。向こうが見通せないほど密生した竹は、太いのは直径20cmくらい。夕方近く、どうやら枯れ竹の整理を終える。次に来る時は青竹の間伐だ。

作業を終え、この日は大井川の上流にある「川根温泉」へ。泉温(源泉)47.7℃、毎分720リットル自噴のナトリウム塩化物泉だ。人気があふしく、広い駐車場もいっぱい。

520円のところ、竹中さん提供の割引券で460円。中に入ると、泉温のちがう露天風呂が四つもある。

ぬるいのが順に入り、一番熱いのは45.5℃。2分ほどお出た。浴後、一時間余りかけて戻る。

予め久米さんと康江さんが用意してくれた夕食は、竹中さんが横須賀から持参したマグロとヤリカの刺身、同じサザエのつぼ焼き、久米さん手製の伊達巻、ブリ大根、イカ人参、焼き餃子、厚揚げ、ホウレンソウの白浸し、セロリの醤油漬、キムチ。白ソバの代わりに、ぼくが持参したサツマイモの焼き芋。久米さんが一本ずつぬれた新聞紙で包んだ上アルミフویلでくるみ、囲炉裏の炭火で焼いてくれた。それで大丈夫かと思ったら、うまいこと焼けていた。

23時近く、今年一年無事に終わったことを感謝して三本締め。



16日(日)、くもり時々晴れ。

刈りためた草を、軽トラックに積んで田んぼへ運ぶ、何回も。正士さんは「ホリデーフォレスト」(近辺のボランティアグループ)と、グループの持場となっている賦産区の草刈り。

昼はカレーライス、エビ芋汁、野菜炒めに漬物。(わたしは入れ歯で歯が立たない)

久米さん、正士さんに送られて救地駅へ。掛川で新幹線にのり康江さん、佐藤さんと、品川で原田、山崎さんと別れ、家へ。よい中間です。また来年。

佐藤さん、早いカムバック!